

## 4 香りとニオイ

株式会社マンダム技術開発研究所クレンズケア製品開発室

澤田真希

SAWADA Maki

### 1 はじめに

身だしなみ、清潔意識の向上から男性の化粧品の使用率が増加している。日本ではニオイ・汚れを落とすことが清潔とされ、強い香りは敬遠されてきたが、近年は香りに対する受容性が上がり、身にまとう香りや体臭に対する意識も変化している。

香りに対する受容性が上がった要因の1つとして、香りを残す柔軟仕上げ剤の流行が挙げられる。2010年頃から柔軟仕上げ剤には多種多様な香りが付与され、香りの強度も強くなった。香水のような強い香りはビジネスシーンでは敬遠されるが、柔軟仕上げ剤のほのかな香りを身にまとうことには抵抗感が少なかったと考えられる。

本稿では、近年の男性化粧品の香りの傾向や日本人男性の体臭特性および体臭ケアとしてのデオドラント製品について紹介する。

### 2 化粧品における香りの役割

化粧品における香りの最も重要な役割は、体臭や化粧品原料特有のニオイのマスクング(=隠す)である。加えて、香水においては、個性を表現するファッションでもあり、調香師が創造する芸術でもあり、異性にアピールするための手段でもある。また、香りは、その商品の嗜好性を上げるだけでなく、時にはブランドや商品のイメージを言葉以上に伝える。

香りは心身に影響を与えることが古くから知られている。精油を用いたアロマセラピーが有名であるが、効能・効果は伝承による部分が多く、科学的な検証は不十分

である。一般的に精油は、天然素材からの抽出物であるため産地や天候により組成が変化する。また、調合された香料についても数十～数百の香気成分を組み合わせるため、香りが与える影響を一概に論じることは難しい。香りやニオイが与える生理的な影響については注目され、まさに今研究が進展している分野である。

### 3 男性用香水の香り

海外では強い体臭をマスクングするため、強度と持続性の高い香りが求められてきた。男性用香水の代表的な香調として、「フゼア調」が挙げられる。フゼア調は、1882年にウビガン社が発売した「フゼア ロワイヤル」という香水が起源である。植物のシダをイメージして創られており、ラベンダーやゼラニウム、クマリン(パウダリーな甘い香り)、オークモス(苔)を基調とした重厚感ある香りである。現在に至るまで男性用香水ではフゼア調が主流となっている。ほかには、柑橘類の香りを基調とした「シトラス調」、セダーウッドやサンダルウッドなど木の香りを基調とした「ウッディ調」、重厚な甘さのある「オリエンタル調」、マリンやアクアティックとも呼ばれるみずみずしい香りの「オゾン調」などがみられる。男性用香水は、女性用香水と比較するとバリエーションが少なく、トレンドの変化も緩やかである。

最近では「ユニセックス調」の香水も増加している。自然派志向の高まりから木や花から香りを抽出した精油(エッセンシャルオイル)や、希少で高価な天然素材を活かしたメゾンフレグランスと呼ばれる香水が男女問わず人気である。

日本人は欧米人と比較すると腋臭(わきが)の要因であ